

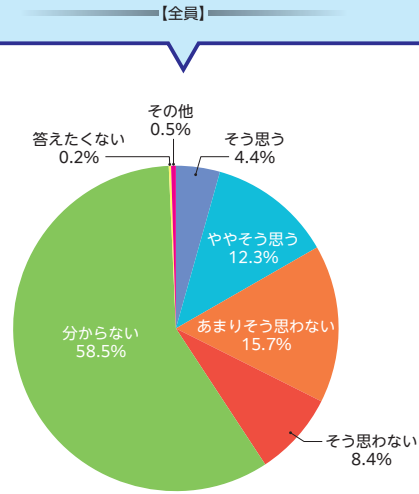


5 大学の支援に関する評価と要望

大学の支援に対する評価と要望について、まず「性自認や性的指向に関する相談・支援が機能しているか」の質問へは「わからない」が約60%でしたが、「あまりそう思わない」と「そう思わない」が合計24%で、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせて17%を上回りました。大学へ要望したい事柄(複数回答)は、「勤務時における合理的配慮(勤務時の外見・服装・言動等で不利益な取扱いを行わない等)」が514件、「ジェンダー・セクシュアリティのガイドラインの作成」(437件)、「性的マイノリティの理解を深める広報、研修の実施」(394件)、「性別を問わないトイレ・更衣室の設置拡大等」(342件)であり、さらに「性別情報や氏名の収集・管理・変更制度の改善」、「相談支援窓口の改善」、「啓発の取組」等が続きました。

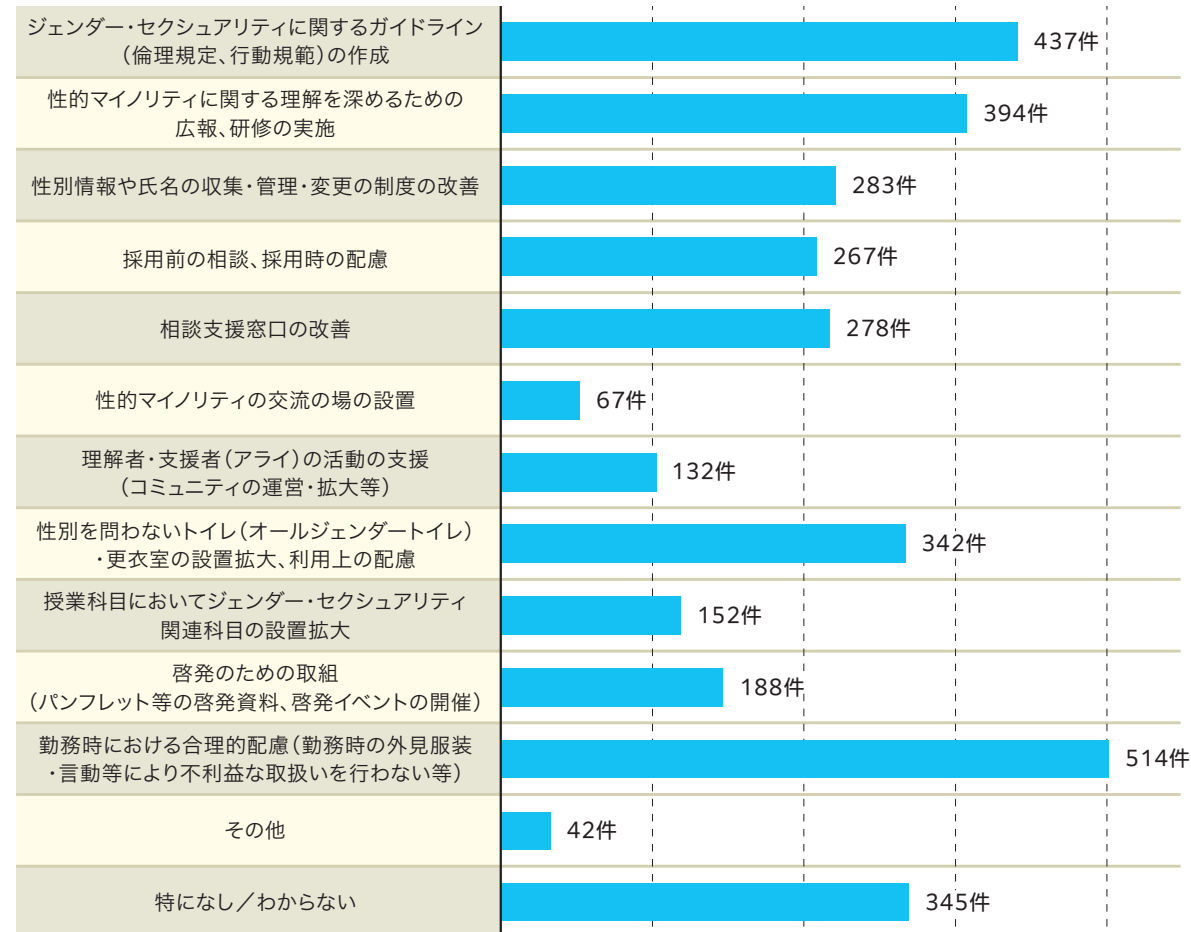
東北大学は全学を挙げて多様な性に関する継続的な啓発活動、適切な対応、支援体制の整備を進めてまいります。

性自認や性的指向に関する相談、支援について
大学が適切に機能していると思いますか。



大学に対して、特に要望したいと思う項目を「最大5つ」選択してください。

【全員】【複数回答】



詳細は東北大学男女共同参画推進センターHP (<http://tumug.tohoku.ac.jp/diversity/pr/>) 内の令和3年度「多様な性を取りまく現状に関するアンケート」実施報告の項をご参照下さい。

令和3年度

「多様な性を取りまく現状に関するアンケート」報告書要約

東北大学男女共同参画推進センター

令和4年6月

東北大学は本令和4年4月に「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言-多様性と公正性を包摂する教育・研究・就労環境の実現のために-」を发出し、男女共同参画とダイバーシティの推進を強化しております。これに先立つ昨年(令和3年)10月22日~11月29日に教職員の性を取りまく環境と必要とされる支援や今後の課題を明らかにすることを目的に「多様な性を取りまく現状に関するアンケート」を実施しました。本学に所属する常勤の教職員及び非常勤職員(学生を除く)9,996名を対象とし、回答は1,281名で回答率は12.8%でした。尚、アンケートは個人情報の保護に留意し、所属部局や職位を含め無記名としました。この結果は性の多様性を尊重した学内環境の整備や仕組み作りのための基礎資料として活用します。

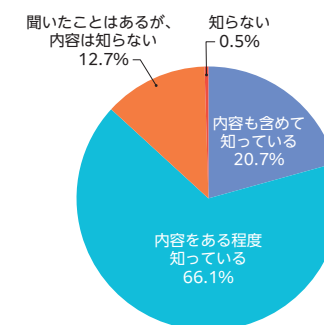


1 性多様性に関する認識

性多様性等への認識について、性的マイノリティ(LGBTQ等)は「ある程度知っている」と「知っている」の比率は合計で86%を超えました。一方、性的指向、性自認、ジェンダー表現(SOGIE)は「知っている」と「ある程度知っている」の比率は合わせても60%に留まりました。多様な性のあり方(性自認、性的指向の考え方)に関して「人それぞれであってよい」と考えている比率は96%を超えました。

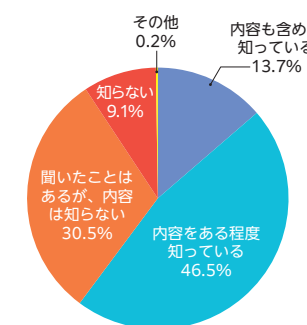
性的マイノリティ(性的少数者、LGBTまたはLGBTQ等)について、どの程度ご存知でしたか。

【全員】



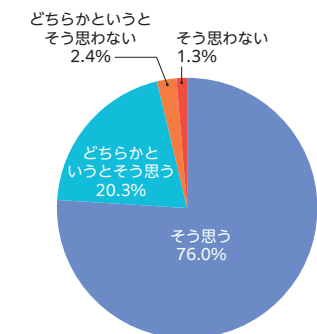
「性的指向(Sexual Orientation)」「性自認(Gender Identity)」「ジェンダー表現(Gender Expression)」「SOGIE)について、どの程度ご存知でしたか。

【全員】



性の多様性について、以下のような意見があります。あなたの考えに最も近いものを教えてください。
自らの性別に関する認識や恋愛感情を抱く性別は人それぞれであってよい

【全員】【一つ選択】



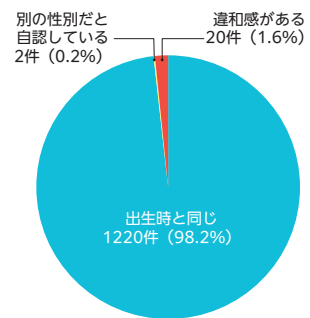


2 性自認と性多様性に対応した学内施設の利用

出生時と現在の性別について、「違和感がある・異なる」との回答は約2% (1242名中22名) でした。性自認と性多様性に対応した学内施設の利用について、「性自認に対応した学内施設を利用できず困難を感じた」との回答は約1% (1274名中13名) でした。具体的には「休憩室・休養室」に係ることが13件、「更衣室」が7件、「トイレ」が6件でした。

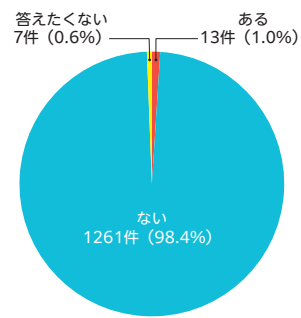
あなたは今のご自身の性別を、出生時の性別と自認していますか。

【任意回答】



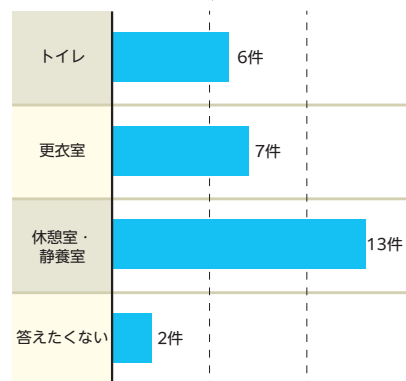
あなたは、学内で自分の性自認に対応した学内設備を利用できず困難を感じたことはありますか。

【全員】



それは下記のどの施設ですか。

【任意回答】【複数回答】

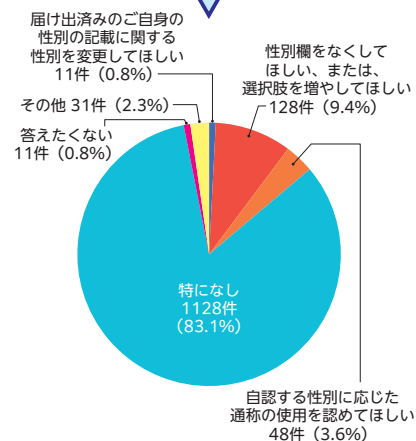


3 性多様性に関する大学の対応への認識

性多様性に関する大学の対応に関し、大学が発行する書類の性別記載について、「性別欄の廃止または性別欄の選択肢を増やす」との意見が128件、「自認する性別に応じた通称の使用を認めてほしい」が48件でした。また「性別欄は性別の判断が必要な内容の書類のみでよい」等の意見もありました。性別による区別に伴う困難を感じた出来事があったときの影響は「自己肯定感が低下した」が38件、「業務の遂行に支障がでた」が21件でした。その他、「書類の手続きで戸惑いを感じた」等の意見もありました。その困難を感じたとき、「第三者の支援や対応があった」が8件、「全学職員相談室もしくは部局支援室等に相談した」が5件、さらに「外部のLGBTQ相談窓口等に相談した」もありましたが、78件(約70%)は「特に何もなかった」でした。

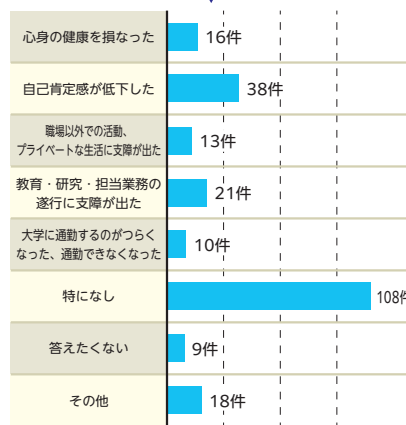
大学が発行する書類のうち、以下のうちから該当するものを全てを選択してください。

【全員】【複数回答】



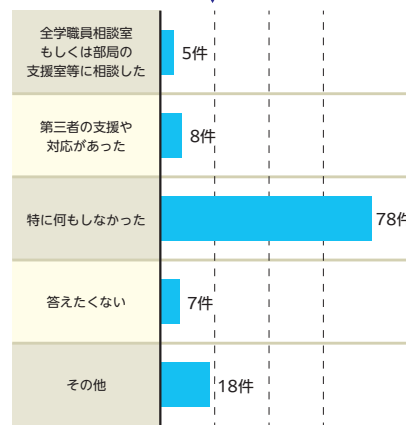
性別による区別に伴って困難を感じた出来事があったとき、あなたにどのような影響がありましたか。

【任意回答】【複数回答】



あなたは、その出来事に対してどのように対応しましたか。

【任意回答】【複数回答】

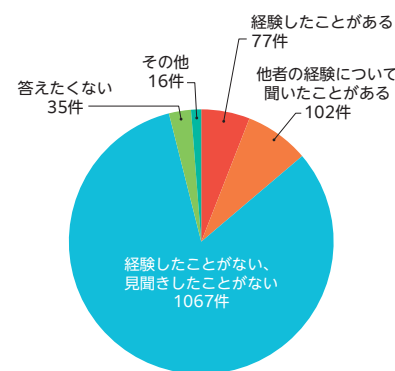


4 性自認・性的指向に関する周囲の状況

性自認や性的指向に関する周囲の状況について、「本学での勤務後に性自認や性的指向に関して周囲の言動によって不快な思いをした経験」では「ある」が77件、「他者の経験を聞いたことがある」が102件でした。その他に、「性的指向を無視した質問」や「性的少数者を貶める発言」等の記載がありました。「不快な言動を行った人」では「大学教員」が75件、「大学職員」が76件、「本学学生」が35件でした。その他回答に「周囲の人全員」、「学外の研究協力者」、「知人」等がありました。「不快な言動が行われた場所」では、「講義や実習等の間、担当業務遂行中」が63件、「勤務時間外」と「休憩時間」をあわせて93件、「研究室での活動中」が36件でした。その他に「採用関係の書類の提出時」等の回答がありました。「不快な言動に対する対応」では、「第三者の支援や対応があった」が12件、「全学職員相談室もしくは部局支援室等に相談した」が8件でした。その他回答に「セクシャルハラスメントに関する言動に特に注意するようになった」、「プライベートの話をしないように対応中」、「一般論として是正を促した」、「それまで男女別に行っていた学生対応を変更し、区別をなくした」等がありました。

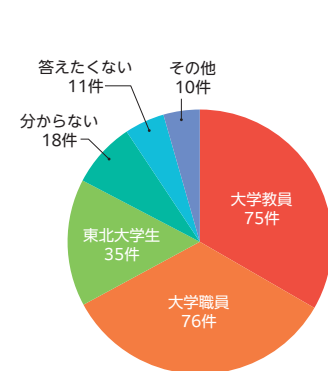
あなたは東北大学に勤務後、性自認や性的指向に関して、周囲の言動によって不快な思いをした経験はありますか。

【全員】【複数回答】



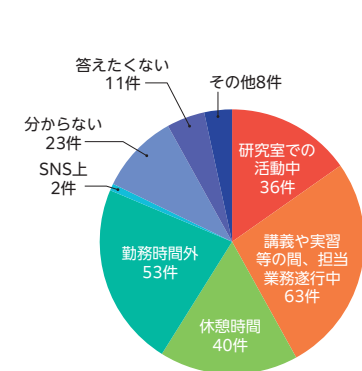
性自認や性的指向に関して不快な言動を行ったのは誰ですか。もしくは誰でしたか。

【任意回答】【複数回答】



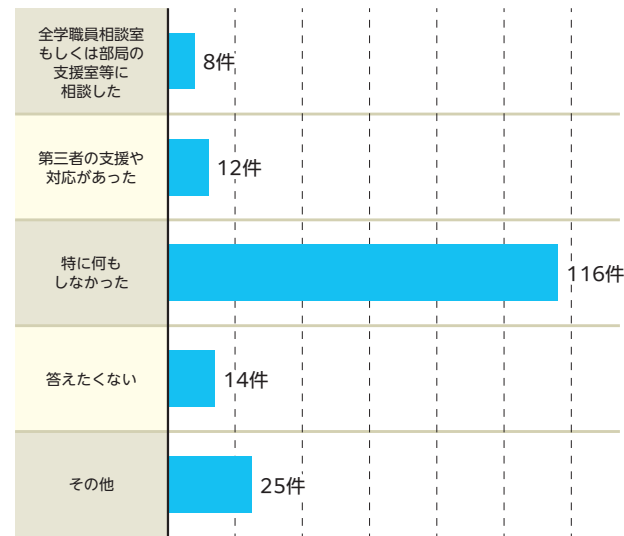
その言動はどこで行われましたか。

【任意回答】【複数回答】



あなたはその出来事に対してどのように対応しましたか。

【任意回答】【複数回答】



その経験の後、あなた自身にどのような影響がありましたか。

【任意回答】【複数回答】

